

これからの家庭教育のあり方と 家庭教育を支援するための方策について

岡山市社会教育委員会議提言

(平成15年3月)



1 家庭とは

家庭とは

→ 子どもが愛されていると実感できる場

→ 子どもが「自立する力」を身に付ける場

→ 親自身が子どもとともに成長する場

2 家庭教育に求められていること

教育の原点は家庭にあり、家庭教育はすべての教育の出発点です。

子どもが愛されていると実感できる家庭であるために

全面的に受容することによって、基本的信頼感を育てましょう

夫婦が互いを信頼し、一致協力して子育てをしましょう

家族で食卓を囲み、親の手づくり料理を楽しむ団らんを大切にしましょう

過剰な期待や干渉はやめましょう

子どもの思いを分かち合いましょう

子どもが「自立する力」を身に付ける家庭であるために

しつけを通して「自律心」を育てましょう

- ・子どもの思いを、しっかり聞きましょう
- ・子どもの自尊心を傷つけないようにしましょう
- ・いつできるようになるかは、子どもに任せましょう

やってはいけないことや、間違っただ行いはしっかり叱りましょう

自分の行いには責任があるということに気づかせましょう

子どもとともに成長する親であるために

親自身が回りの人々とのコミュニケーションを大切にしましょう

家族以外の人にも愛情や思いやりの心を持ちましょう

親の人間関係を基盤にしながら、子どもの交流の輪を広げましょう

子どもの成長・発達に応じた関わり方をしましょう

【乳児期】(0～1歳)

親から愛されているという基本的信頼感が最も豊かに育ちます。

【幼児期前半】(1～3歳)

自律心が最もよく育ちます。

【幼児期後半】(3～5歳)

自主性や創造性が最も豊かに育ちます。

【学童期(小学生)】

社会性や勤勉性が最もよく育ちます。

【思春期(中学生)】

「自分らしさ」を見つけようとしています。

3 家庭教育を支援するためのアプローチ

「子どもは社会の宝」であり、子育てにはみんなで取り組みましょう。

地域社会にお願したいこと

地域の行事に子どもたちを参加させましょう

親子が共通の体験をしたり、活動する機会を確保しましょう

ボランティア活動・自然体験・スポーツ・文化活動や青少年団体の活動を活発に展開しましょう

職場や企業にお願したいこと

子育てをしやすい雇用環境を整えましょう

職場見学の機会を拡大し、働く親の姿を見せましょう

有害情報の子どもへの影響に配慮しましょう

学校・園にお願いしたいこと

- 子どもを預ける親と預かる人との信頼関係を大切にしましょう
- 保育園や幼稚園による子育て支援を進めましょう
- 校内外活動に関する情報提供を行い、子どもたちの参加を奨励しましょう
- 中学生や高校生が乳幼児とふれあう機会をつくりましょう
- 「開かれた学校・園づくり」を推進しましょう

行政にお願いしたいこと

- 「子育ての社会化」を促すための環境を整えましょう
- 家庭教育に関する学習機会を確保しましょう
- 子育て支援に関するネットワークづくりを進めましょう
- 父親の家庭教育への参加を支援しましょう
- 子育てに関する相談体制を推進しましょう
- 情報提供システムを整備しましょう
- 行政内部の連携を強化して、具体的な施策を展開しましょう